

## 蝶ヶ岳遭難(2024年5月)

残雪期、トレースが不明瞭で道迷い。地図アプリで現在地を確認するも妻が思うように動けず午後5時過ぎに救助要請し、午後8時救助隊が合流、午前1時過ぎに横尾山荘へ到着した。



## 解説

雪の残る樹林帯を進むうちにトレースが不明瞭になり、Aさんは、いつしか登山道を外れていることに気がつきました。地図アプリで現在地を確認すると正規のルートからそれほど離れていなかったため復帰を試みましたが、雪上の歩行に不慣れなBさんの技量を考えると、思うように行動できなかったそうです。Aさんによれば「妻の歩きやすい方向に進むしかなかった。妻に体力的に余裕がなく登り返すことは考えられなかった」とのことでしたが、結果的にはこの判断が裏目に出てしまい、そのまま下山を続けると斜面はさらに急になり、急な雪渓に迷い込んでしまいました。

特に登山経験の少ないBさんは雪を踏み抜いて小さな滑落や転倒を繰り返すようになってしまいました。行動も長引き、午後5時を過ぎたころ、日没を前にAさんはやむなく横尾山荘に電話をして救助を要請することにしました。(HP参照)

残雪期は、地図を見ずにトレースを辿っていると道に迷っていることがある。地図アプリで現在位置を確認できたなら復帰できるのではないかと思うのだが、すでに急斜面に入り込んでいて復帰するには難しいこともある。また、アイゼンではなくチェンスパイクを妻が付けていて思うように歩けなかったのも遭難する一因となった。地図アプリは絶対ではないことを心がけたい。